

研 究 成 果 報 告 書

法人に対する刑事制裁をめぐる

実体法的・手続法的諸問題に関する比較法的理論研究

18530045

平成 18 年度～平成 19 年度科学研究費補助金

(基盤研究 (C)) 研究成果報告書

平成 20 年度 6 月

研究代表者 岡 上 雅 美

筑波大学 大学院人文社会科学研究科 准教授

寄贈
岡上雅美氏

08008696

<はしがき>

本研究は、犯罪論における法人処罰の問題およびそれに伴い刑事訴訟法上の問題を明らかにすることを目的とした。そこで、①ヨーロッパ諸国における法人処罰の現状として、オーストリア・スイス・フランスおよびドイツを取り上げ、②法人の犯罪能力および刑事責任の成立可能性を検討した。訴訟法上の問題点については、なお今後、研究成果を公表することとする。

研 究 組 織

研究代表者 : 岡 上 雅 美

(筑波大学 大学院人文社会科学研究科 准教授)

交付決定額 (配分額)

(金額単位: 円)

	直接経費	間接経費	合 計
平成 18 年	1,800,000	0	1,800,000
平成 19 年	1,000,000	300,000	1,300,000
総 計	2,800,000	300,000	3,100,000

研 究 発 表

(1) 雑誌論文

- ・ Pawlik／岡上雅美 (訳) 「予防理論による刑罰正当化への批判」 比較法雑誌 40 巻 4 号
- ・ 岡上雅美 「刑罰正当化論から見た責任概念および意思の自由」 刑法雑誌 46 巻 2 号
- ・ Céré／岡上雅美 (訳) 「フランスにおける法人の刑事責任の展開」 企業と法創造 4 巻 1 号
- ・ Céré／岡上雅美 (訳) 「フランスにおける刑罰執行法の最近の展開」 筑波法政 44 号
- ・ Freier／岡上雅美 (訳) 「啓蒙への回帰: 団体刑の再導入について」 早稲田大学比較法学掲載予定

(2) 学会発表

- ・ 岡上雅美 「刑罰正当化論から見た責任概念および意思の自由」 日本刑法学会

(3) 図書

- ・ 筑波大学法科大学院 『融合する法律学 (下巻)』 信山社

研究成果による産業財産権の出願・取得状況

なし

以降は学術雑誌掲載論文から構成されていますが、著作権者(出版社、学会等)の許諾を得ていないため、筑波大学では電子化・公開しておりません。

なお、リンクのあるものについては出版先から、全文もしくは概要が公開されています。詳しくはリンク先をご覧ください。

[予防理論による刑罰正当化への批判](#)

ミヒヤエル・パヴリーク 岡上雅美 訳 比較法雑誌 40(4), 63-87, 2007

刑罰正当化論から見た責任概念および意思の自由

岡上 雅美 刑法雑誌 46(2), 258-269, 2007

[フランスにおける法人の刑事責任の展開](#)

ジャン＝ポール・セレ 岡上雅美 訳 企業と法創造 4(1), 2007

フランスにおける刑罰執行法の最近の展開: ヨーロッパ法および国際法の影響

ジャン＝ポール・セレ 岡上雅美 訳 筑波法政 (44), 175-187, 2008

[啓蒙期への回帰: 団体刑の再導入について](#)

フリードリッヒ・フォン・フライヤー 岡上 雅美 訳 比較法学 42(3), 75-113, 2009